

蹴鞠

Remari

2014 [平成26年] 2.15 [sat] - 3.29 [sat]

休館日：毎週日曜日
開館時間：9:30-17:30(入館17:00まで)
観覧料：無料
列品解説：2.15[sat]13:30=(担当学芸員)

イベント：蹴鞠装束着付実演と鞠についての講演
3.8[sat]14:00=(蹴鞠保存会)

主催：天理ギャラリー運営委員会
展示：天理大学附属天理参考館
後援：読売新聞社
協力：蹴鞠保存会・自峯神宮(以上 京都)
談山神社(奈良)・平野神社(滋賀)
天理大学附属天理図書館・天理大学サッカー部
最寄駅：JR/神田, 東京メトロ/神田・新御茶ノ水・淡路町, 都営地下鉄/小川町



鞠水干・各種金紗籠合上



蹴鞠図(部分)



蹴鞠 談山神社 (2012.4.29撮影)

白鞠と蛸色桜文金
蒔絵紫組緒鞠扶



蹴鞠 目覚めよ、日本の「足魂」

蹴鞠は、日本におけるサッカーのルーツと広い意味で捉えられています。Jリーグ開幕前に国立競技場で蹴鞠が披露されたのをご覧になった方も多いのではないのでしょうか。

蹴鞠は、中国から仏教とほぼ同期を同じくして伝来したと伝えられています。大化の改新へとつながる中大兄皇子と中臣鎌足の出会いが蹴鞠の場だったことは有名です。その後の長い年月にわたる歩みのなか、日本の文化や伝統によって独自のスタイルを確立し、様式としては東アジアに例を見ない足を使った遊戯に発達します。中国で軍事教練の一つだったものが、日本では勝敗を競うのではなく、鞠を地面に落とさないようにお互いに多くの回数を蹴り続ける遊戯へと変化します。優雅に蹴り渡しているように見えて、そのために厳しい鍛錬が必要とされます。日々の訓練によってのみ、鞠の変化に対して瞬間的無意識的に足が反応して動くようになる「足魂」が生まれるのだと十三世紀の貴族の秘伝書に綴られています。頭上に吊した桶にコントロールした鞠を百発百中全て正確に蹴り入れることができるようになったら、外で実際に蹴り合ってもよろしいなど、興味深い記述も見ることができます。

その厳しい訓練の伝統を受け継いで、現代の「足魂」を伝える日本のサッカー。今回の展示では、蹴鞠とサッカーの比較も試みつつ、装束、用具、ルールなど、蹴鞠の様式を伝える資料をご覧いただきます。また、蹴鞠関連文書を多数所蔵する天理図書館の協力を得て、その史料の一部を複写でご紹介いたします。



鞠・サッカーボール・セバタクロウの球



紫組懸緒立烏帽子と烏帽子箱



蹴鞠とサッカーの比較

(蹴鞠)	(サッカー)
鞠：鹿皮	【使用球】 サッカーボール：
重さ約100g	人工皮革
外周58～65cm	重さ約450g
	外周68～70cm
鞠足	【競技者】 プレーヤー
8人	【チーム】 11人



イベント

「蹴鞠装束着付実演と鞠についての講演」

3. 8 [sat] 14:00 - (蹴鞠保存会)

休館日：毎週日曜日

開館時間：9:30 - 17:30 (入館17:00まで)

観覧料：無料

列品解説：2. 15 [sat] 13:30 - (担当学芸員)

主催：天理ギャラリー運営委員会

展示：天理大学附属天理参考館

後援：読売新聞社

協力：蹴鞠保存会・白峯神宮 (以上 京都)・談山神社 (奈良)・平野神社 (滋賀)

天理大学附属天理図書館・天理大学サッカー部

最寄駅：JR / 神田、東京メトロ / 神田・新御茶ノ水・淡路町、都営地下鉄 / 小川町



Tenri Gallery, Tokyo

天理ギャラリー

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-9 東京天理ビル9階

tel 03-3292-7025

<http://tokyotenrikyokan.co.jp/gallery/> <http://www.sankokan.jp/> (天理参考館 H.P.)